



愛知学院大学文学部創設50周年記念講演会が、ロバート・キャンベル先生をお迎えして、大学の日進キャンパスにて行われました。

ロバート・キャンベル先生は、様々なメディアに出演される一方、日本文学研究者として、東京大学教授、国文学研究資料館館長などを歴任され、現在は東京大学名誉教授、早稲田大学特命教授、早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)顧問を務められています。

今回の演題は、“文学が紡ぐ人々の「絆」—大都市における近世日本の文化と情報機構—”と題し、多くの学生、および同窓生がこれを聴講しました。

愛知学院大学 | 文学部・心身科学部 |

同窓会報

第 **42** 号
発行日
2021年12月20日

<http://bundo.agu.ac.jp/>

大学の新型コロナウイルスへの対応



愛知学院大学 学長
引田 弘道

令和2年の冬から日本でも感染が認められた新型コロナウイルスは、その正体が分からないまま、不気味で危険なウイルスとして日本中をパニックに陥れました。令和2年4月には入学式もないまま、大学構内立ち入り禁止という非常事態となりました。大学もどうすれば教育の質を落とすことなく授業を実施できるかが、まさしく暗中模索の状況でした。令和2年度の春学期は、すべて課題提出型の遠隔授業とせざるを得ませんでした。秋学期からは少人数の演習、実習、語学の科目を中心に対面授業を再開しました。学期の定期試験はどうか、入試は本当に実施できるのか、とても頭を悩ませました。

令和3年度に入ると、少しこの感染症の様子も分かってきましたので、入学式を挙げることもでき、さらに教室定員の3分の2を上限として対面授業を再開しました。5月末から一ヵ月間、感染が拡大し緊急事態が発出されると、遠隔に変更し、解除されると再度対面へと、感染状況に応じて目まぐるしく授業形態を変更いたしました。

この間、授業や会議も大きく変わりました。当初はWEB Campusという連絡専用のシス

テムを利用するしか方法がありませんでしたが、現在ではマイクロソフト社のチームスを使い、授業の同時配信や録画配信にチャレンジされる先生方が大多数となりました。学会などでもズームを使用した発表が多くなり、ICTを利用した授業形態に移行しつつあります。また会議では、従来膨大な紙を配布していましたが、PCを持ち込み、ほぼペーパーレスの形態となりました。

令和3年の8月末から10月初旬にかけては、ワクチンの職域接種を本学でも行い、4,000人を超える教職員や学生に接種を実施することができました。新型コロナウイルスにより私たちの日常は奪われましたが、同時に新しい形の日常が形成されつつあります。授業も従来の対面とネットとを併用した新しい形のものになっています。いっぽう従来からあった学生と教師の対面での会話、クラブ等での学生同士の連帯は今まで以上に価値あるものと再認識させられました。知識の伝達と人間性の向上をどうバランスをとりながら進めていくべきか、大学に課せられた使命はより重いものとなっています。

同窓会の新型コロナウイルスへの対応について



文学部・心身科学部同窓会 会長
小田 久洋

コロナ禍の中、同窓会の活動も大きな制約を受けています。ご承知のとおり、総会は昨年度に続き書面審議となり、懇親会は中止となりました。同窓会のような友情と信頼を基礎にする組織にとって、直接にお会い出来る場を失ったことは、痛恨の極みです。ですが、健康と安全を最優先と考え、決断いたしました。

来年度こそは、リアルな総会と懇親会が出来るように祈るばかりです。

ところで、ホームページと郵送を組み合わせた方法による総会の書面審議や文学部50周年にて開催されたキャンベル先生講演会のYouTubeを利用したライブ配信などは、遠方の会員も気軽に参加できるなど、大きな

メリットがあったように思います。これらにより、インターネットを利用した様々な情報発信、交流の方法が、以前よりも随分と身近になったと感じています。

来年度以降の総会・懇親会においては、資料等のホームページでの公開、総会・懇親会のライブ配信、SNSによる審議への参加など、利用できるものは、是非生かしていきたいと考えています。

コロナ禍に負けない前向きな取り組みとして、同窓会の活動の中で、インターネットを活用した取り組みを、今後も増やし、さらに多くの会員が同窓会活動に参加いただけるよう工夫してまいりたいと思います。



1970年に心理学科を開設し、公認心理師をはじめ多数の人材を輩出してきた本学は、新時代の期待に応える「心理学部」を新設します。歴史ある学部の伝統は生かしつつ、より可能性に満ちた専門教育を行います。心理学の知見を強みとして、産業や行政、医療・福祉・教育など、幅広い分野で活躍できる人材を育てる新学部、2022年4月スタートです。

心理学部は、「心理学×データサイエンス」と「心理学×ヒューマン・テクノロジー」の2つのキーコンセプトを軸とし、前者では従来の心理学の枠を超えた幅広い学び。心理学の実証データを有効活用し、教育や産業、研究・開発分野において活躍できる知識・スキルにつなげ、後者では「ストレスマネジメント」や「コミュニケーション」の向上に上手な付き合い方や円滑なコミュニケーションを育む方法、他者を理解し、支えていくための専門的な知識・スキルなどを幅広く身につけます。(大学ホームページより)

心理学部の誕生について



心理学部 学部長 就任予定者
心身科学部 心理学科

高木 浩人 教授

同窓会の皆様には日頃よりたいへんお世話になっております。このたび心理学部が創設されることとなりましたので、そのねらいと内容につき、紹介させていただきます。

心理学科は1970年に文学部内に創設され、2003年の心身科学部心理学科への改組を経て、現在50年を超える歴史を有しています。今日まで、心理学の幅広い分野にわたる基礎教育を基盤に多くの卒業生を輩出してまいりました。卒業生の皆様は、大学で学んだ心理学的知見を活かして、さまざまな現場でご活躍です。

さて、現在わが国が直面する少子高齢化、グローバル化、デジタル化といった現象は、新たな課題を多数発生させています。こうした新たな課題を解決できる人材の育成という社会的ニーズに積極的に応える学部として、心理学部が誕生することとなりました。心理学部では、すべての学生が、認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計の各分野の基礎的知識を幅広く学び、

ストレスマネジメントおよびコミュニケーションのスキルを高めていきます。

また、心理学部では「心理学実践分野(含公認心理師コース)」「多文化・共生分野」「情報・ビジネス分野」の3つの分野を創設しました。「心理学実践分野(含公認心理師コース)」では、これまでの公認心理師・臨床心理士の養成に向けた教育を基軸とし、保健医療、福祉、教育、産業等の現場において心理的援助を施すプロフェSSIONALの育成を目指します。「多文化・共生分野」では、様々な背景をもつ人や多様な分野の人と連携する視点と技術を持つ人材を養成します。「情報・ビジネス分野」では、心理学的知見を産業に活かすため、その足がかりとなるデータサイエンス、感性工学、行動経済学、消費者行動論などの教育を行っていきます。

心理学部ではこれらの教育を通じて、「自信をもって現代社会で活躍できる人材」を育成してまいります。同窓会の皆様には、今後ともご支援のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

文学部創設50周年記念講演会の記録

文学部 日本文化学科 吉田 遼人 講師

文学部創設50周年記念事業として、2021(令和3)年11月18日、早稲田大学特命教授でいらっしゃるロバート キャンベル先生の講演会が100周年記念講堂にて開催されました。

晴天に恵まれた当日の午後1時ごろ、名古屋駅にお見えになったキャンベル先生は、まことにかるやかで温かいお人柄で、本学へと向かう途次も、文学(研究)のことや目下のご関心のことをはじめ、多岐にわたるお話を気さくにお聞かせくださいました。当記念事業の実行委員長をお務めである松蘭 斉先生(文学部歴史学科教授)と再会なされてからは、九州大学にいらしゃった当時の思い出話を花を咲かせておられ、そのご様子もとても印象深く残っています。

「文学が紡ぐ人々の「絆」—大都市における近世日本の文化と情報機構—」と題されたご講演では、広義の「文学」を介して、近世日本に生きる人々がさまざまな「情報」とどのように関わりえていたのか、その具体的なありようについてお話しされました。たとえば、文化14(1817)年、葛飾北齋が名古屋の西本願寺掛所かけしょで大達磨絵きごうを揮毫した出来事をめぐっては、高力猿猴庵こうりきえんこうあん「北齋大画即書細図」における記録から、幅広い階層の人々が同じ空間に居合わせていたこと、そして、それを可能にしたひとつの媒体として「引札」があったことに注意を喚起されたうえで、当時の「情報」伝播の機構の一面を照らし出すといった具合です。

紙幅の都合上、ここに詳録することはできませんが、現代とは断絶している面もあれば連続している面もある江戸時代の文化、社会の一特色がありありと目に浮かぶご講演でした。数多くの興味深い資料を紹介しながら、多様な「情報」を鮮やかにみせるキャンベル先生の言葉には、聴衆の誰もが心地よく身をゆだねていたことでしょう。

最後になりましたが、コロナ禍により1年の延期を余儀なくされた今回の記念講演会の開催に際しましては、諸事にわたって、文学部・心身科学部同窓会に多大なご支援、ご協力を賜りました。おかげさまで、大盛況のうちに無事に閉会を迎えることができました。記して深謝申し上げます。



文学部紀要50周年記念号のご案内

文学部創設50周年記念事業として、文学部紀要第51号に、50周年記念特集が組まれて発行されます。

本特集は、通常の学術論文ではなく、理事長を始めとした大学役職者、ご退職された先生方、現職の先生方による挨拶等が掲載されます。右表に示した先生方の近況なども触れられていると思います。さらに、ロバート・キャンベル先生の記念講演も紹介されます。

お名前	学 科	退職年	お名前	学 科	退職年
赤池 憲昭	宗教文化学科	2004	大野 榮人	宗教文化学科	2017
風呂本 武敏	国際文化(英語英米)学科	2009	鈴木 俊次	国際文化(英語英米)学科	2017
鏡味 明克	日本文化学科	2010	野呂 忠司	グローバル英語学科	2017
立川 武蔵	国際文化(英語英米)学科	2011	白石 浩之	歴史学科	2019
西川 孝雄	歴史学科	2012	木村 英憲	国際文化(英語英米)学科	2020
羽多野 正美	グローバル英語学科	2012	千野 直仁	心理学科	2020
田島 毓堂	日本文化学科	2013	山中 弘	国際文化(英語英米)学科	2021

●文学部・心身科学部同窓会では、本紀要を無料でお送りします。ご希望の方は、本会ホームページからお申し込みください。
※申し込みには、ご案内ハガキに掲載したパスワードが必要です。

ロバート・キャンベル先生講演会の感想

またひとつ教養が増えたような気がする短時間ではありましたが、内容の濃い講演だったと思います。

江戸時代の疫病とその情報伝達についての話は、江戸時代にあった豊かな庶民の文化について、改めて気づかせてくれました。葛飾北斎など、誰もが知る当時の「芸術家」の感性が、時代を映し出す様は、手法は変われど、我々が気づきを得るきっかけをくれる道標になるものですね。コロナ禍の中でこそ、文学などの芸術表現を守らないといけないと感じた次第です。

小田 久洋

“こんまりのときめき”など今どきの例えを取り入れながら、ロバート・キャンベル先生のきれいな日本語をやさしい語りで聞くことができました。

江戸時代の文学は、日記のように記録されていて、生きる上で大切な情報、教訓が当時の実話から知恵として、今の時代に通じていると考えられているとのこと。興味が出てきます。定年退職したらゆっくりと博物館などを訪れたいと思いました。

伊藤 茂

ロバート先生の講演会は持ち前の親しみやすい笑顔とともに、終始穏やかな口調で幕を閉じた。

文学はなぜ必要で、どのような力を人々に与えてきたか。インターネットがない時代には、人々は、引き札と言われる各地に貼られた印刷物に書かれた文字により浮世絵展などの情報を得た。人々は集い、楽しみとして自由に作品について語り合い、批判をしてきた。

コロナ禍において、文学は人々の心を時代を超えて繋いでくれたことを思い起こさせた。

坂浦(三品) 文美

ロバート・キャンベル先生の講演会はとても面白かったです。今まで知識としてしか認識していなかった江戸時代の中で、人々の生活があり、娯楽があり、人と人とのつながりがあることを知ることができました。

また流行病というものがあり、それに対する対策を娯楽の中に織り込んで広めたり、広まらないようにという祈りだったり、現代でも変わらない想いや現代でも通用する手法が当時の中にもあることは勉強になったし、今後に活かすことができるのではないかと思います。

山形 寿

江戸時代にも江戸時代特有の情報伝達と共有する「機構」があったという指摘が大変興味深かった。

江戸時代の四半世紀に一定程度発生した麻疹の流行に対する記憶の継承と教訓が物語の中で共有されている。その実例として式亭三馬の『麻疹戯言』の中で、「飲むもの食べるもの全ての味がしないこと、一人で12日間布団で寝ているしかないこと」など、コミカルに教訓が書かれている。現在のコロナ禍と似ている状況が江戸時代にも起きていたことが紹介された。

山田 孝

文学部・心身科学部同窓会創立50周年に向けて

本会は、令和5年度に創立50周年を迎えます。この間、本会には文学部に心身科学部が加わり、来年度からは心理学部が加わる予定です。

愛知学院大学の発展と共に、本会は大きく成長してきました。2万6千人を超える会員は、北海道から沖縄、そして海外にも所在しています。

文学部・心身科学部同窓会 会長 小田 久洋

創立50周年を迎えるにあたり、本会は50周年記念事業のコンセプトのひとつとして、全国の同窓生との結び付きを強めることを進めていきたいと思っています。

いよいよ始まる50周年記念事業、全国の会員と共に祝えるよう準備したいと思っています。

第48回 文学部・心身科学部同窓会総会 書面審議

結果報告

令和3年度の総会は、昨年度に続き書面審議にて行いました。方法は、会員宛のハガキにて書面審議を行う旨を通知し、本会ホームページにて、期間限定により総会関係資料を公開し、それに対する賛否を問う形式としました。今年度は、賛否の締切前に、質疑応答期間を設け、会員からの質問、意見等に回答させていただきました。それらは「総会書面審議に係るQ & A」としてホームページに掲載しています。

その結果1,835名の会員の方に参加をいただき、提案したすべての議案は承認されました。

会の活動を進める上で、総会は本会の最高決議機関です。したがって、その審議において会員から対面でのご意見等を頂戴できないのは、少々寂しい思いがあります。ですが、採決に多数の方に参加いただける昨年度、今年度の方法は、コロナ禍の中での方法ではありますが、コロナ禍収束後の総会運営に生かせる貴重な経験であったと思います。

令和3年度 事業計画

- 理事会の開催 ※原則として年度2回開催の予定
 - 第1回理事会: 令和3年5月(書面審議により開催)
- 常任理事会・各部会議の開催
 - 〈常任理事会〉※原則として月1回開催の予定
 - 第1回常任理事会: 令和3年4月20日(火) 19:00~21:00 出席者: 8名(オンライン開催)
 - 第2回常任理事会: 令和3年5月11日(火) 19:40~21:00 出席者: 8名(オンライン開催)
 - 第3回常任理事会: 令和3年5月25日(火) 19:00~ 開催予定(オンライン開催)
 - 〈各部会議〉※必要に応じて随時開催の予定
- 第48回文学部・心身科学部同窓会定期総会(懇親会は中止、総会は書面審議で実施)
- 同窓会会報第42号の発行
- 新会員向けに同窓会ハンドブックの発行
 - 令和3年度卒業生(文学部・心身科学部新(正)会員)への郵送による配布
- 準会員(学生)への助成および支援
 - 奨学生、特別奨学生への助成 ●支援クラブへの助成
 - 卒業謝恩会等への助成 ※開催形態・内容に応じた助成を実施
 - 準会員と教員との親睦会への助成 ※助成方法をルール化すると同時に、開催形態・内容に応じた助成を実施
- 同級会等開催への助成
 - 通信費の負担および事務代行 ※コロナ禍が進行しているため今年度は中止
- 愛知学院大学同窓会連絡協議会への協力
 - 令和2・3年度の連絡協議会議長を担当
- 地方同窓会への助成
- 愛知学院大学文学部および心身科学部への協力
- 文学部50周年事業に対する助成
 - 令和2年度の予定が3年度に延期されたもので、助成金を増額(100万円から600万円)し対応
- その他、本会の目的を達成するために必要な事業
 - 本会ホームページのリニューアル

令和2年度 会計決算報告(単位:円)

自:令和2年4月1日 至:令和3年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	収入額	予算	科目	支出額	予算
前年度繰越金	283,144,877	283,144,877	連絡協議会費	10,000	10,000
入会金・会費	28,205,000	29,000,000	渉外費	0	50,000
受取利息	1,865,684	1,800,000	総会費	4,236,821	7,400,000
雑収入	30,000	200,000	会議費	310,007	1,960,000
			助成金	1,916,954	7,480,000
			印刷費	1,297,386	1,850,000
			通信費	1,701,806	1,980,000
			備品費	0	200,000
			人件費	3,465,708	4,840,000
			消耗品費	196,675	500,000
			旅費	134,080	1,030,000
			慶弔費	59,000	200,000
			災害見舞金	0	800,000
			雑費	74,190	200,000
			管理費	20,370	700,000
			育成費	886,000	1,100,000
			修繕費	0	200,000
			予備費	0	500,000
			事業積立金	1,000,000	1,000,000
			新型コロナウイルス感染症緊急対策費	10,000,000	10,000,000
			小計	25,308,997	42,000,000
			次年度繰越金	287,936,564	272,144,877
合計	313,245,561	314,144,877	合計	313,245,561	314,144,877

令和3年度 会計予算(単位:円)

自:令和3年4月1日 至:令和4年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額		科目	金額	
前年度繰越金	287,936,564		連絡協議会費	10,000	
入会金・会費	28,000,000		渉外費	50,000	
受取利息	1,800,000		総会費	5,000,000	
雑収入	50,000		会議費	1,610,000	
			助成金	11,580,000	
			奨学金	10,000,000	
			印刷費	1,900,000	
			通信費	1,980,000	
			備品費	200,000	
			人件費	4,840,000	
			消耗品費	600,000	
			旅費	1,030,000	
			慶弔費	200,000	
			災害見舞金	800,000	
			雑費	200,000	
			管理費	2,100,000	
			育成費	1,000,000	
			修繕費	200,000	
			予備費	500,000	
			事業積立金	1,000,000	
			小計	44,800,000	
			次年度繰越金	272,986,564	
合計	317,786,564		合計	317,786,564	

財産目録(単位:円)

令和3年3月31日現在

科目	摘要	金額
普通預金	三菱UFJ銀行 今池支店 No.1515154	7,820,068
〃	三菱UFJ銀行 今池支店 No.0298840(注1)	36,465,620
〃	三井住友銀行 名古屋支店 No.1220067	161,296
〃	三井住友銀行 藤が丘支店 No.244981	98,603
〃	みずほ銀行 名古屋中央支店 No.1523128	99,237
〃	ゆうちょ銀行 一宮七郵便局 No.11981881	18,020
定期預金	三井住友銀行 名古屋支店 No.01	10,000,000
〃	三井住友銀行 藤が丘支店 No.46096	10,000,000
〃	みずほ銀行 名古屋中央支店 No.6101582	10,000,000
〃	ゆうちょ銀行 一宮七郵便局 No.11981881	10,000,000
国債	三菱UFJモルガン・スタンレー証券 名古屋支店	203,273,663
小計		287,936,507
事務室小口現金		57
合計		287,936,564

(注1)決済型預金 ベイオフ対象外

周年事業積立金

(口座番号)	三菱東京UFJ銀行 今池支店 定期預金 No.3987155
(口座名義)	愛知学院大学 文学部・心身科学部同窓会 周年記念 会長 小田久洋
(積立金額)	17,272,541円

備品明細

摘要	数量
事務室机	1
応接セット	1
カウンター	2
書架	2
コンピューター機	1
コンピューター&ディスプレイ	4
カラー複合機	1

第49回文学部・心身科学部同窓会 総会・懇親会のお知らせ

第49回総会・懇親会は、コロナ禍の状況にもよりますが、できる限りの感染防止策を講じた上で、大学関係者及び会員の皆さんと共に、対面により開催する方向で検討しています。

期日は、令和4年6月12日(日)、場所は、名古屋東急ホテルを予定しています。

本総会・懇親会は、来る本会50周年に向けたキックオフ・旗揚げの場として盛大に開催できればと考えています。会員の皆様には是非ご予定を調整いただき、ご参加ください。

令和4年6月12日(日)
名古屋東急ホテル
にて開催予定



令和3年度 奨学生と支援クラブの紹介

昨年に続いて、令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大にともない、春学期の授業形態が「対面」から「ハイブリッド」「オンライン」そして、また「対面」へと変わりました。同窓会としては、奨学生および支援クラブの募集期間を遅らせることで対応しました。しかし、学内への立ち入りやクラブ活動も制限され、奨学金および支援金の学生への周知がなかなかできませんでした。そのためによるものが7月の奨学生の応募は1人もなく、再度9月に再募集を行うことで対応しました。特別奨学生については、ほぼ例年どおりの日程で行うことができました。

奨学生

写真左から
(心身科学部 健康科学科3年)

大泉 竣太郎

(文学部 歴史学科4年)

石川 大輝

(文学部 英語英米文化学科2年)

中崎 萌

(文学部 日本文化学科4年)

和田 結衣



奨学生からは

- 教職に就きたいのでスキルを高めるために使いたい
- 大学院進学の為の参考文献を買いたい
- 留学費用に使いたい
- 卒業論文に力を注ぎ、様々な資格を取るために使いたいなどの希望が述べられました。

支援クラブからのお礼

チアリーダー部

この度は、クラブ支援金給付クラブに採用していただき、誠にありがとうございます。私達チアリーダー部は、部活のみんなが大好き!チアが大好き! そんな集団です。しかし、昨年度からなかなか対面練習が行えなかったり、イベントがなくなってしまったりと、思うように活動ができませんでした。

今年度は、このようなご時世ではありますが、新しい仲間にも恵まれ、様々なことに挑戦をしています。ご支援いただいているすべての方への感謝を忘れずに、また、恩返しができるよう、さらに邁進してまいります。最後になりましたが、クラブ支援給付クラブに採用していただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。(写真は伝達式の様子)



ソフトボール部

この度はクラブ支援に採用していただき誠にありがとうございます。

部員一同大変嬉しく思っております。いただいた支援金はバットやトレーニング器具の購入に充てさせていただきました。新しい道具のおかげで選手のモチベーションも上がり、日々充実した活動を送ることができています。また、今回の採用は先輩方が大会で素晴らしい成績を収められたおかげであり、我々も追いつき追い越せるよう練習に励んでいきたいと思っております。

馬術部

この度はクラブ支援金を私達馬術部に給付していただき、ありがとうございました。

馬術部は他の部活と異なり、生き物である馬と力を合わせて戦いに挑んでいく部活です。そのため、相棒である馬の世話は必須であります。

また必要条件には人員だけでなく、お金も大切になってきます。このような多くの人達の支援があって部活を続けられることに感謝し、その恩返しとしてこれまで以上の功績を残せるように努めたいと思っております。

文学部・心身科学部の学部生／大学院生〈準会員〉

を対象とした助成等の活動について

本会では、学部生、大学院生を対象とした助成活動を行っています。

- 学生個人向けの奨学金
- クラブ向けの支援金
- 教員と学生との親睦への助成
- 卒業記念パーティー、卒業記念アルバムへの助成
- 大学院生研究会への助成 等

これらは卒業時にお配りしている「同窓会ハンドブック」に内容を掲載し紹介しています。なお、この他に、コロナ禍における困窮学生への助成、文学部50周年への助成、心理学部開設に伴う助成など、幅広く在学生と学部への助成を行っています。また、同級会開催への助成など、同窓生への助成も行っています。詳しくは本会事務室までお問い合わせください。



令和3年3月 退職者のご紹介とご挨拶

文学部

日本文学学科

神山 重彦 先生

心身科学部

健康栄養学科

酒井 映子 先生

健康栄養学科での 栄養士・管理栄養士養成の教育を顧みて

心身科学部 健康栄養学科 酒井 映子 先生

心身科学部に栄養士課程(卒業必修)と管理栄養士養成課程(選択必修)を設置した健康栄養学科が開設された2008年4月に就任し、2021年3月末に定年退職をいたしました。

開設以来10余年を経て、管理栄養士の国家試験受験者が70%以上に増えるとともに合格率も概ね95%以上となっています。さまざまな分野で活躍する卒業生も多くなり、健康栄養学科が社会的にも認知されるようになりました。卒業生が幅広い分野で躍進している状況は嬉しい限りです。退職直前の2020年度は、コロナ禍での授業形態が一気に進展し、Teamsを利用したオンライン講義やグループ実習、オンライン国試模擬試験の実施、地域社会と連携したWebでのアクティブラーニングを行うなど新しい取り組みを楽しく、面白く学びながら体験できました。対面授業の重要性も見直され、座学中心の講義科目も反転授業やPBL等の工夫がされるようになっていきます。コロナ禍を通して学び方は多様化していますので、卒業生の方々が社会人として再び母校で学ぶようになることを願っています。

令和3年4月 新任教員の紹介



文学部 英語英米文化学科
大澤 傑 講師

最終学歴

防衛大学校大学院総合安全保障研究科後期課程、
博士(安全保障学)



文学部 日本文学学科
吉田 遼人 講師

最終学歴

明治大学大学院文学研究科、
博士(文学)



心身科学部 健康栄養学科
服部 浩子 教授

最終学歴

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科後期課程、
博士(公衆衛生学)

同窓会事務局より

あなたも同級会を開きませんか？

昨年度、今年度と思いきやコロナ禍により、地方同窓会、予定されていた同級会、すべて中止となりました。来年こそは状況が良くなり、人と人との交流を持つことができますようにと祈るばかりです。

さて、事務局では同級会開催のお手伝いをしております。同級会開催の詳細が決まりましたら代表幹事さんは3か月前には事務局にご連絡ください。事務局から開催ご案内の葉書をお出し、幹事さんにお返事が戻るようにします。申請書・報告書を送付いたしますのでご記入後事務局までご返送ください。

10人以上の出席を助成対象とし、

参加1名につき2,500円最大

10万円まで助成いたします。

詳細は事務局までお問合せ

ください。



地方同窓会の紹介

地方同窓会は「関東」、「関西」、「山陰」、「四国」、「広島」の5つがあり、在住などの関係で愛知県での同窓会に参加することが難しい方や、同窓会が年に一度では寂しいという方など幅広く参加して下さる方を歓迎しております。



学部年代を問わず同窓生と会えることができ、部活やサークルで仲の良かったあの人や今は同じ地方に住んでいたとか、小中高の先輩や後輩、同級生が実は同窓生だったなど意外な再会、新たな縁を結ぶ出会いの機会になっています。愛知県での同窓会同様の、豪華賞品の抽選会での当選率の高さも魅力です。

在住の関係でなかなか会うことのできない仲間だけでなく、同じ土地で生活している同じ大学を卒業した者同士の絆を感じてみるのはいかがでしょうか。地方同窓会のご案内がありましたら、ぜひ足を運んでみてください。

事務局から本会ホームページのご案内

本会では、ホームページを開設し、同窓生の皆さんに、入学式や学位記授与式、大学祭などの大学の様子や、本会活動についてご紹介しています。今後、デザインなどの見直しを進め、皆さんに親しまれる、情報豊かなホームページをめざしていきます。

文学部・心身科学部同窓会ホームページ
<http://bundo.agu.ac.jp/>

